

3月月例労働経済報告のポイント

一般経済

景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。

- ・輸出は、緩やかに増加している。生産は、持ち直している。
- ・企業収益は、改善している。
設備投資は、下げ止まりつつある。
- ・企業の業況判断は、依然として厳しい状況にあるものの、全体として持ち直しの動きが続いている。ただし、中小企業では先行きに慎重な見方となっている。
- ・雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・個人消費は、持ち直している。
- ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

先行きについては、当面、雇用情勢に厳しさが残るものの、企業収益の改善が続くなかで、海外経済の改善や緊急経済対策の効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、海外景気の下振れ懸念、デフレの影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。また、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

労働経済

労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 1月の完全失業率（季節調整値）は4.9%で、2ヶ月連続で前月差で低下（0.3ポイント低下）。
- ・ 就業者数（季節調整値）は6,303万人で、2ヶ月連続で前月差で増加（54万人増）。
- ・ 雇用者数（季節調整値）は5,489万人で、2ヶ月連続で前月差で増加（37万人増）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.46倍（前月差0.03ポイント上昇）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.85倍（前月差0.04ポイント上昇）。
- ・ 現金給与総額（原数値・速報）は273,142円で、前年同月比0.1%増。